

平成26年11月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成26年11月28日 (金)		
2 開会及び閉会	開会	14時00分	
	閉会	15時10分	
3 出席委員	委員長	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員	奥津晋	
	委員	塩田澄子	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	渡辺和夫	教育次長	植田朋哉
統括審議監(企画調整担当)	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	山口啓二	審議監(就学担当)(就学課長事務取扱)	逸見司臣
審議監(保健体育担当) (保健体育課長事務取扱)	長畑智	教育企画総務課長	長瀬尚樹
人事財務課長	荻野拓志	指導課長	堀井博司
生涯学習課課長補佐	安東信哉	岡山後楽館中学校・高等学校事務長	重松浩二郎
こども企画総務課 (次世代育成室室長補佐)	中吉浩一郎		
事務局(教育企画総務課課長代理)	赤野政治	事務局(教育企画総務課主任)	大西正記
5 議題及び結果			
報告第35号	専決処理の報告(平成26年度岡山市一般会計補正予算(第3号)案のうち教育委員会分の教育費予算案への同意について)	承認	
報告第36号	専決処理の報告(岡山市立学校条例の一部を改正する条例の原案への同意について)	承認	
6 教育長等の報告[平成26年10月18日(土)～平成26年11月14日(金)]			
10/18～19	自然体験リーダー養成講座ステップ③-1	こども企画総務課	
10/21	いきいき学校園づくり	指導課	
10/22	いきいき学校園づくり	指導課	
10/23	いきいき学校園づくり	指導課	

10/24	いきいき学校園づくり	指導課
10/29	開かれた学校づくり教育講演会	生涯学習課
10/29	いきいき学校園づくり	指導課
10/30	いきいき学校園づくり	指導課
10/31	いきいき学校園づくり	指導課
11/2	わくわく子どもまつり in 岡山ドーム	こども企画総務課
11/7～8	児童生徒によるE S D実践発表及びE S Dパネル展示	指導課
11/8	市学童陸上運動記録会・研修会	保健体育課
11/8	ユネスコスクール世界大会（ユネスコスクール全国大会）	指導課
11/8～9	自然体験リーダー養成講座ステップ③-2	こども企画総務課
11/10	いきいき学校園づくり	指導課
11/11	中学校音楽の集い	指導課
11/13	こらぼミーティング（岡山っ子育成条例推進会議）	教育企画総務課
11/13	いきいき学校園づくり	指導課
11/14	いきいき学校園づくり	指導課
11/14～15	全国中高一貫教育研究大会	岡山後楽館中学校・高等学校
奥津委員 こども企画総務課室長補佐	○ わくわく子どもまつり in 岡山ドームについて、内容を教えてほしい。	
奥津委員 こども企画総務課室長補佐	○ 例年多数の参加がある。地域の方やNPO、大学などの団体の協力を得て、子どもの体験ブース、ステージやフリーマーケットを準備した。	
教育長	○ どのような層を対象にしているか。	
委員長 塩田委員	○ 小学校低学年から、その少し下の子どもたちまでを対象としている。内容はお金をかけずに遊べるものであり、どんぐりを転がす自然体験や、木で家を作る体験などである。	
保健体育課長	○ 幼稚園、保育園、子ども会、スポーツ少年団や教師の有志など様々な団体が関わっている。実際に行ってみたが、自分たちで工夫しながら手作りし、ずっと同じ物で遊んでいる子どももいた。また、中学生が120人くらいボランティアで参加しており、感心した。	
塩田委員 保健体育課長	○ 参加者が18,000人と多数の参加がある素晴らしいイベントだと思う。	
委員長 保健体育課長	○ 市学童陸上運動記録会・研修会について、研修会とあるが、どのような研修をしているのか。	
奥津委員 保健体育課長	○ 短距離走、投てき、幅跳びそれぞれ陸上競技の専門家を招いて講師として研修を行っている。	
東條委員	○ これは子どもたちが実地で行っているものか。	
こども企画総務課室長補佐	○ そのとおりだ。	
奥津委員 岡山後楽館中学校・高等学校事務長	○ これは選手の養成のようなものか、それとも裾野を広げるようなものか。	
	○ 裾野を広げるようなものである。	
	○ 参加者は小学生ということだが、どういう選び方か。	
	○ 標準記録を上回った子どもを対象としている。	
	○ 自然体験リーダー養成講座について。対象と、定員は何人か。また、その周知方法はどうか。	
	○ 定員は20名。対象は大学生、一般社会人。毎年10名前後がエントリーする。会員は100名程度。ホームページや大学、成人式等の行事での声かけで周知・募集している。	
	○ 全国中高一貫教育研究大会について、どのような大会だったか。	
	○ 全国中高一貫教育研究会という任意組織の主催である。この会は、全国に約	

<p>教育長</p>	<p>450ある中高一貫校のうち、140の学校で構成されている。中高一貫教育の充実と使命達成を図り、教育の振興に寄与することを目的としている。</p> <p>○ 今回の岡山大会は、当校が2年前から取り組んでいるコミュニケーション能力の育成を主題とした研究を発表し、公開授業を行い、その成果を共有しようとしたものである。両備グループの小嶋代表の記念講演を行い、3つのグループに別れ分科会を行った。</p>
<p>委員長 植田教育次長</p>	<p>○ 植田教育次長も参加したのか。</p> <p>○ 参加した。私立の一貫校が多く、公立も増え、私立公立合わせて全国で約450校程度であるが、その大半の中高一貫教育校のめあては「進学」であり、大学受験に対して十分な対応をしているということを看板としている。当時、学校教育法の改正によって公立で中高一貫校が認められることになり、後楽館中高は平成11年4月にスタートした。文部科学省も初めは「受験校」にならないようにという姿勢であったが、数年後には有名無実化していった。そういう現状の中で、後楽館中高は現在でも進学のみを旨としていないという独自路線を貫いている。その中でコミュニケーション能力の育成をテーマに取り組んでいる。</p> <p>例えば、他都市では基調講演や研究発表などほとんど大人が主体となって行っていたが、後楽館中高の全体会は、半分以上は生徒がプレゼンテーションを行った。生徒自身が、研究テーマであるコミュニケーション能力が育っているということを開会行事の中で披露したというのは象徴的だった。</p>
<p>委員長 岡山後楽館中学校・高等学校事務長</p>	<p>○ こういう行事には一般の人も興味があれば参加できるのか。またPRの方法は。</p> <p>○ 基本的には任意団体の研究会であるので、一般の方への公開はしていない。後楽館中高のホームページや記者への資料提供でPRを行っており、事後に1紙、新聞掲載された。</p>
<p>委員長 岡山後楽館中学校・高等学校事務長</p>	<p>○ 中等教育学校が多かったのか。それとも併設型か。</p> <p>○ おそらく併設型が多いであろうと予想していたが、実際は、中等教育学校が一番多かった。次に連携型が多く、併設型は少なかった。中高一貫校以外の校種の参加もあり、中高連携の大切さを伝えることができた。</p>
<p>塩田委員 教育企画総務課長</p>	<p>○ こらぼミーティング（岡山っ子育成条例推進会議）はどういう状況であったか。</p> <p>○ 岡山っ子育成条例に基づいて、その趣旨を推進していくために会議を開催し、家庭、学校園、地域社会や事業者それぞれの代表者を集っていただき、協議を行った。今回は「家庭の教育力の向上に向けて」というテーマであった。第1回会議は昨年度開催しており、今は団体ごとで何かひとつのことをしようというレベルにまで醸成していないので、今回はご自身の地域でできる家庭の教育力の向上に関わる身近な取組を実践していただき、その成果と課題を持ち寄り、その課題の部分に焦点を当て、共通する背景がないかを探ることが目的であった。当日は、構成員の方13名、教育委員は教育長を含めて3名、事務局は教育次長以下15名の計31名がそれぞれのグループに分かれて協議した。</p>
<p>奥津委員</p>	<p>○ 私が入ったグループは地域教育の課題ということで、スポーツ少年団や地域の団体が参加され、情報交換と問題点について協議した。例えば最近の地域性が希薄になっていることや、いかに地域の行事に引き込んでいくかということで苦労されていることを聞いた。地域での子育て・教育に一生懸命取り組んでおられることがよく分かった。年配の方が中心となって活動されており、若い</p>

<p>教育長</p>	<p>世代と一緒にやっとうまくいっているケースもあるが、なかなか難しい課題である。</p> <p>○ 私は事業者の方から見た家庭教育であったが、事業者は出席者が2名だった。お一人はOSKの方で学校へ出前講座として水泳指導を行っているが、保護者へ現場を見てもらうことが難しいという課題があった。薬局のザグザグの方は職場体験学習として子どもを受け入れている。子どもたちに、職場の専門性ではなく、職と物に対する心構え、将来的に職につくものとしてどうあるべきかということ、体験を通して学んでもらうことを目的にしているが、それがどれだけ子どもたちの教育に役立っているのかという意見もあった。これを家庭の教育力に置き換えた場合、保護者が働いている様子を見せることも必要ではないかという意見もあった。保護者が仕事の休みをとって子どもたちの学校での様子を見る仕組みがあってもよいというような意見もあった。</p>
<p>委員長</p>	<p>○ 本会議が、岡山っ子育成条例を具現化するために動いているなど感じた。とても具体性があったよかったと思った。私は家庭部会に参加した。PTAの方が何人かおられ、様々な実情を言われた。保護者として意見を学校へ提言したり、子どもから意見を聞いたりするが、結局は保護者が変わらないといけないことがたくさんあるなどという話になった。ちょうどこの時期にLINEの利用制限の話があったが、同じ家の中にいながら、夕食ができたことを保護者がLINEで子どもに伝えるという例も出され、現実はまだここまで来ているので、やはり保護者の生活も見直さなければならないと思った。このこらぼミーティングで教育委員も参加できるようになり、少しずつ現場が見えてきたかなと思う。</p>
<p>委員長 指導課長</p>	<p>○ ESD世界大会等について説明を。</p> <p>○ 今回の世界大会に合わせて、岡山市内のユネスコスクールを中心としたESDの活動を世界や全国から来た人に対して是非アピールをしたいという思いで、まずサイドイベントとして開催したのが、「児童生徒によるESD実践発表及びESDパネル展示」である。合計39校がそれぞれの学校で取り組んでいる様子の写真等を入れたパネル展示を行った。9小学校1中学校の子どもたちがそのパネルの前で説明したり、3小学校1中学校が特設のステージ上で発表したりした。これについて外国から来られた方々からは良かったという評価をいただいた。小規模の学校の子どもたちも大勢の前で堂々と発表し、発表した子どもたちにとって良い機会になり、自信にもつながった。そして「ケニアの方に褒めていただいた」ことや「韓国の方からうれしいコメントをいただいた」ことが、子どもたちのこれからの原動力になったという学校長からの感想もあり、このサイドイベントを実施してよかったと思っている。</p> <p>ユネスコスクール全国大会については、全国からユネスコスクールが集まって岡山大学で会議を開催した。オープニングで伊島小学校・津島小学校の子どもたち計8名が開会宣言を行った。これは子どもたちが自分たちで考えた言葉で、「将来こんな世の中を築きたい、こういうふうにしたい」、「そのためにこんなことを私たちはするのだ」ということを開会宣言で堂々と述べて周りから好評を得た。また、三門幼稚園の子どもたちはステージ上でESDソングに合わせて踊りを踊った。ESD文部科学大臣賞を京山中学校が受賞し、発表した。</p> <p>今回のイベントは岡山のESDの活動をしっかり見てもらうよい機会になったのではないかなと思う。この機会で終わらず、これからこの経験・取組を発展させていきたいと考えている。</p>

7 議事の概要

委員長	○ 平成26年11月定例岡山市教育委員会定例会を開催する。
委員長	○ 本日の傍聴希望者はなし。
委員長	○ 日程第1, 会期は本日1日限りとしてよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第2, 10月定例会の議事録に問題はないか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 日程第3, 事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載)
委員長	○ 日程第4, 報告第35号について, 説明願う。
人事財務課長	○ 説明(報告第35号の資料に沿って説明)
委員長	○ 質問, 意見はないか。
東條委員	○ 中学校区で「頑張る学校応援事業」の優良実践校に選ばれているところは, DVDレコーダは各校で購入するのか。また, タブレット端末については, 全生徒に配るのか。
指導課長	○ 岡輝中学校区については中学校区全体で使うものを購入する。中学校でも使うし, 小学校でも使うことになる。京山中学校区は, ICTを活用した授業の推進ということで, 中学校は各普通教室にテレビがないため主にテレビを, 伊島小学校については主にタブレット端末を, 津島小学校についてはデジタルカメラと教材提示装置を考えている。
東條委員	○ 京山中学校区は校区で購入して小中一緒に活用して授業するのではなく, 単体で使うという考えで良いか。
指導課長	○ 基本的には単体で使うことを考えている。
委員長	○ 中学校の授業と小学校の授業を合わせてテレビ会議ができるのかと思っていたが。これは教育委員会の予算では付かないという考えでよいか。例えば海外とのテレビ会議など。
人事財務課長	○ 事業としてそういうものをとりあげるかどうかだと思う。
委員長	○ 県から交付されたこの予算は, 市の教育委員会で使える範囲を超えてイレギュラーな使い方ができる予算なのか, 市に入るお金なので, そういう制約を受けるものなのか。
指導課長	○ 基本的には選ばれた理由があって, これからその理由を中心としながら, 取組をもっと充実させるために交付されるものである。例えば, ある学校が国際理解というものに力を入れて選定された場合, さらにそれをもっと発展させたということであれば, 認められることになる。
委員長	○ 例えば韓国と交流していれば, 子どもたちを韓国に派遣する旅費に使えるのか。
審議監(学校教育担当)	○ 派遣が1回限りでは終わらないものであり, 来年度また選定され, 予算が配当される保証はないため, 学校としてはそうした形では使いづらいと考えられる。
委員長	○ その他旅費の用途は何か。
指導課長	○ 講師の派遣料である。施設整備費と人件費には使えない。
東條委員	○ 修繕費が入っているが, これは何か。
指導課長	○ タブレット端末の導入にあたって, そのまま使えないところを整備するためである。
委員長	○ オートドックスな使い方と感じられる。

指導課長	○ 決定から予算策定まで短期間であり、また取組を充実させるという制約の中で決定したため、学校としても苦しい部分もあったと思っている。期間があればもう少し工夫ができたかもしれない。
東條委員	○ 今年は時間が短かったということだが、この事業は3年くらい続くものか。
指導課長	○ 県は「3年は継続させたい」と言っている。
東條委員	○ あと2回やって、校区での取組をしているところでは、校区で利用できるネットワークづくりをしてほしいと思う。今回は時間が短かったが、これがひな形になってしまう恐れもあるので、来年度募集または選定する際には、選ばれたときにどういうことに使うのかイメージを持ってほしい。
奥津委員	○ 保護者にも伝わっていると思うが、どういったことに使うか児童生徒、保護者も含めて意見を聞いているのか。
指導課長	○ ある学校では、決まってから教職員で協議している。本来であれば地域の方や保護者の方等と話をすべきかもしれないが、実際はやっていない。ただ、学区または学校によっては、地域協働学校の運営協議会等には連絡し、意見をもらったところもある。
委員長	○ 理想の形はそうやって様々な意見を吸い上げていくうちに、本当に教育内容について協議ができるかもしれない。今後は夢を語っていく時間があってもよいかもしれない。頑張る学校応援事業がモデルになって他の学校に良い波及効果があがることも期待されているのだから、そういう意味では教育内容を伝え、使い道も今までなかったようなことを発案していくことも必要ではないか。
委員長	○ 報告第35号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 報告第36号について、説明願う。
就学課長	○ 説明（報告第36号の資料に沿って説明）
委員長	○ 質問、意見はないか。
委員長	○ 学校の行政順は変わっているのか。
就学課長	○ 区の順、次に町名の50音順である。
委員長	○ 報告第36号を承認してよいか。
全委員	○ <承認>
委員長	○ 以上で、議案の審議は全て終了する。

傍聴の状況		
報	道	0名
一	般	0名